

三宅島の火山活動解説資料

(令和6年4月抜粋)

火山活動解説資料は地図や写真、図表を用いて火山の状況や警戒事項について定期的または必要に応じて臨時に解説する資料です。本資料は、三宅島の4月の活動状況について解説した抜粋版です。詳しくは、村役場臨時庁舎1階パンフレットスタンドにある本資料または気象庁HPをご利用ください。

次回の火山活動解説資料(令和6年5月)は6月10日に発表する予定です。

次ページへ



GNSS連続観測¹⁾で山体深部の膨張を示す伸びが続いています。2019年4月頃からみられた山体浅部の膨張を示すと考えられる伸びの傾向は2023年に入り停滞していますが、引き続き地下のマグマの蓄積は進んでいると考えられることから、今後火山活動が活発化する可能性があります。

地震活動及び噴煙活動は低調で、火山ガス(二酸化硫黄)²⁾の放出量も極めて少ない状態が続いています。山頂火口内の地形や噴気、地熱域に特段の変化は認められません。

次ページへ



主火孔の噴煙活動は弱いながらも続いており、火口内での噴出現象が突発的に発生する可能性があります。山頂火口内³⁾及び主火孔から500m以内では火山灰噴出に警戒してください。

噴火予報(噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)の予報事項に変更はありません。

次ページへ



山頂火口内の状況(スオウ穴から撮影)



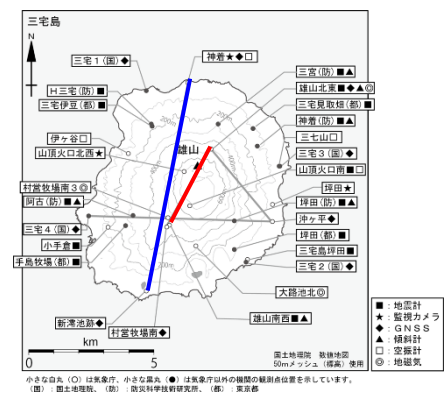
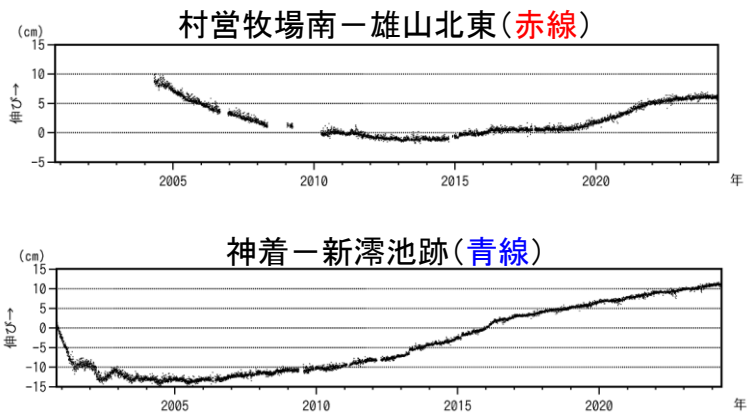
2024年04月26日05時11分

2024年03月19日05時45分

前月と比べて噴煙の高さや量が多く観測されましたが、噴煙活動が活発化したものではなく、気象的要因により一時的に多く見えたものだと考えられます。地形に特段の変化は認められません。

次ページへ





観測点配置図

GNSS連続観測による地殻変動の状況

村宮牧場南－雄山北東の基線(赤線)で、2019年4月頃からみられていた山体浅部の膨張を示すと考えられる伸びの傾向は2022年以降鈍化し、2023年に入り停滞しています。神着－新瀨池跡の基線(青線)では、2006年頃から山体深部の膨張を示す地殻変動が継続しています。



GNSS連測観測¹⁾

GNSSとは全球測位衛星システム(Global Navigation Satellite Systems)の略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。山頂を挟んでGNSS受信機を置き(この2地点間を基線と呼んでいます)、その距離が伸びた場合に山体が膨張、縮んだ場合に山体が収縮していると考えます。

火山ガス(二酸化硫黄)²⁾

火口から放出される火山ガスはマグマが浅部へ上昇すると放出量が増加します。火山ガスの成分はマグマに溶けていた水、二酸化炭素、二酸化硫黄、硫化水素などです。

気象庁では、これら火山ガス成分のうち、二酸化硫黄の放出量を観測し、火山活動の評価に活用しています。

次ページへ



山頂火口内³⁾

山頂火口内とは、雄山山頂にある火口及び火口縁から海岸方向に約100mまでの範囲を指します。

問い合わせは

■三宅島火山防災連絡事務所

東京都三宅島三宅村阿古497番地

(三宅村役場臨時庁舎3階)

電話：04994 - 5 - 0980

(受付時間：平日の8時30分から17時15分まで)

休日、夜間の電話によるお問い合わせは、自動的に気象庁火山監視・警報センターに転送されます。